

乙見湖休憩舎 夢見平遊歩道

夢見平遊歩道（ゆめみだいらゆうほどう）は、笹ヶ峰（ささがみね）ダムの方側のエリアを縫うように走っており、ブナやシラカバの木々が深く生い茂っている。また、途中には 1950 年代初めまで操業していた製材所跡地もある。森の中を歩いていると、この一帯が約 2 万 5 千年前には湖の底だったということは想像しがたいかもしれない。ダムから続く階段を一番上まで上ると焼山（やけやま）（2,400 m）を見ることができ、山からは今でも時折噴煙が立ち上っている。

（注：トイレはウサギコースの開始地点とキツネコースにのみ設置されている）

ウサギコース（3 km、2 時間）

このコースを歩き始めるとすぐに池にたどり着く。池の近くにあるカエルの石像からもそれとなく分かるが、ここでは毎年 6 月にカエルとクロサンショウウオの産卵が行われる。そこから道は真っすぐ延び、かつての軌道敷に沿って続いていく。以前はこの軌道敷を使って、20 キロメートル離れた現在の黒姫駅まで荷馬車で木材が輸送されていた。春になると、この季節を象徴するミズバショウとカタクリの花がコース沿いに咲き始める。

道をさらに進んでいくと、稻荷大神（いなりおおかみ）を祀った神社が見えてくる。1991 年に発見されたこの神社は、江戸時代（1603～1867）に作られたと考えられている。元々は神道山（しんどうさん）へ登る道の途中にあったが、発見された後に、山を下った現在の場所に移され、ハイカーたちを見守っている。

キツネコース（10 km、4.5 時間）

このコースの序盤は、カラマツの 2 つの木立に覆われている。カラマツはその頑丈さから木材として高い評価を受けている木だ。

トイレの近くには奥が行き止まりになっている脇道があり、そこを進んでいくと樹齢 300 年のカツラの老木が立っている。（注：この道を行く場合にはさらにもう 1 時間かかる。）

トイレを通り過ぎた先には、1932 年からおよそ 20 年間操業した製材所の跡地がある。製材所の住宅地区には小学校もあり、その地区の範囲は、古い炭焼き窯が隣にある氷沢神社（ひょうざわじんじゃ）のところにまで広がっていた。